

酒好きにおすすめ

兵庫県の観光スポットといえは、神戸北野の異人館、姫路城、有馬温泉、竹田城跡などが有名だが、少し変わったところで、酒好きにおすすめなのが灘の酒蔵である。兵庫県は清酒生産量全国1位であり、その多くが、日本を代表する酒どころの1つである灘

⑦ 一般財団法人日本不動産研究所

地域資源を生かす

～まちづくりからインバウンドまで

兵庫県「灘の酒蔵」

地方で生産されている。

灘の酒どころは灘五郷と呼ばれ、神戸市東部から西宮市の今津周辺までの沿岸地帯に位置する西郷、御影郷、魚崎郷、西宮郷、今津郷の5つの地域からなる。灘五郷には古い酒蔵をベースとした趣ある建物が点在し、記念館、資料館として多くの観光客を迎え入れている。またこれらの施設では、併設されている店舗

で原酒の試飲サービスが受けられ、豊かな味わいを楽しむことができる。

灘地方における酒造りは、古くは室町時代から行われていたという記録もあるが、灘の酒造業が全国的に有名になったのは江戸時代になってからである。酒造りに適した良質な米、西宮で見つかった上質な水、丹波杜氏による優れた酒造技術、六甲山系からの急流を利用した水車による精

米技術、さらには海運を利用しやすい立地といった要素が重なり、江戸時代後期には灘地方が江戸の酒の8割を供給していたとも言われている。

その後近代に入り、政府の制度変更や戦争等の影響も受けたが、戦後の高度成長期には、一般家庭を中心に飲みごたえのある辛口日本酒である灘の酒が出荷量を伸ばした。日本酒の消費量は1973年をピークとし、以降は缶ビ-

ルの普及や焼酎ブームの影響により消費量は減少し続け、現在では、最盛期の消費量の3分の1程度にまで落ち込んでいる状況にある。

このような状況や酒造の近代化の影響を受けて、灘五郷では、旧来の酒蔵を記念館や資料館などに改装し観光需要の獲得に取り組んできた。また近年、世界的に日本食・日本酒ブームが起きていることもあり、外国人観光客へのア

ピールも行われている。

インバウンドへの期待

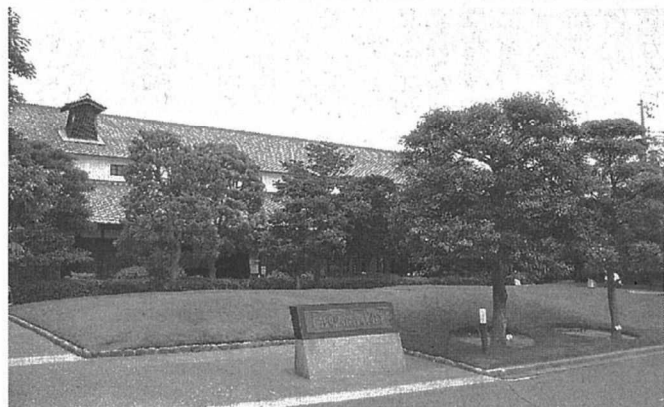
もっとと活用の多様化を

伝統文化をアピールできる「歴史的遺産」

昨今、関西はインバウンドで盛り上がりつつある。大阪府では心斎橋筋商店街や黒門市場商店街が、京都市では錦市場商店街や有名な寺社仏閣が、外国人観光客でにぎわっている。関西2府4県における17年のインバウンド消費額は、3年前の2・8倍に伸びており、大阪府は3・6倍、京都府は2倍との調査結果もある。一方でその調査によれば、兵庫県はインバウンド消費が2割程度減少し、地域格差が明確になっている。



古い趣のある酒蔵は記念館や資料館として活用され、観光客を受け入れている。上は沢の鶴資料館、下は白鶴酒造資料館



大阪からほど近いという立地を生かし、灘五郷のような日本文化が味わえるスポットをよりアピールしていくことで、兵庫・神戸のインバウンド消費が期待できるのではないだろうか。また先頃、奈良市では、旧市街地の酒蔵であった建物を、高級宿泊施設にリニューアルするという事例があった。灘五郷の酒蔵も、例えば同様の活用が可能であるろうし、そうならば地域の活性化が見込めるのではないかとと思われる。日本の伝統を継承する酒蔵は歴史的価値も高く、今後その活用形態の多様化が期待される。

(神戸支所、不動産鑑定士・重田尚輝)